

評価基準 A…良好な取り組みを実施している B…おおむね適切に実施している C…一部改善を要する点がある

評価項目	(1) 居場所機能	委員会評価
設問①	児童・生徒が安心して通えるために、どのような工夫を行っているのか。	A
設問②	児童・生徒の状態をどのように把握（アセスメント）しているか。また、支援計画を立て、スタッフ間で共有を図っているか	B
設問③	休みがちな児童・生徒への支援や働きかけはどのように行っているか。	B
設問④	児童・生徒からの相談に対して、どのような対応を行っているか。必要に応じて関係機関との連携を行っているか。	B
主な評価点	元幼稚園という環境を生かし、園庭での植栽や栽培を児童・生徒とともにいながら、安心して過ごせる雰囲気づくりを行っている。日々、児童・生徒の様子を注視し、朝と夕刻にスタッフ会議を開催し、スタッフ間で共有するとともに、会議録によりスタッフ間での引継ぎも行っている。また、必要に応じて、学校をはじめ、児童相談所や子ども家庭支援課とも連携を図っている。休みがちな児童・生徒には、保護者へ電話連絡を行うほか、「ほっとスクールだより」を送付し、通室の働きかけを行っている。	
主な改善点	児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、適切な評価や見直しを行っていく必要がある。また、総合センターへの移転後においても、現在の安心して過ごせる環境を維持できる工夫を行う必要がある。	

評価項目	(2) 学習支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒一人一人の状況に応じた学習支援を行っているか。また、具体的にどのような学習支援を行っているか。	A
設問②	学習支援にあたり、目標や計画を定めて行っているか。また、目標達成や学習習熟度の評価をどのように行っているか。	B
設問③	学習意欲の醸成に向け工夫している点はあるか。	B
設問④	進路相談等、進学に向けどのような取り組みを行っているか。	A
主な評価点	スタッフが、児童・生徒一人一人の学力の状況を把握し、それぞれに応じた指導計画を作成している。また、必要に応じて個に合った教材を用意するなどの対応も行っている。また、1日の中で学習の時間を明確に設定しており、スタッフの声掛けと助言により促しを行っている。進路については、進路相談会で情報提供を行うほか、学習、作文、面接指導等の支援を実施しており、学校との情報共有も図っている。	
主な改善点	学習計画の目標達成状況や学習習熟度については、担当スタッフの個人的な判断に拠るところが大きく、組織的な検討や在籍校との連携の強化が求められる。	

評価項目	(3) 社会適応支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒の自主性や自立性の育成、自己肯定感の涵養に向け、どのような取り組みを行っているか。	A
設問②	コミュニケーション能力の育成に向け、どのような取り組みを行っているか。また、児童・生徒間の交流にあたり、どのようなことに配慮しているか。	B
設問③	どのような体験活動を行っているか。また、体験活動の充実に向け、どのような工夫を行っているか。参加しない児童・生徒へはどのような働きかけを行っているか。	A
主な評価点	多様な活動やイベントを実施し、児童・生徒の得意なことを生かせる役割を付すことで、主体的な取り組みができるよう工夫を行っている。また、その際、肯定的な声掛けを行うことをスタッフ間で共通認識を有しており、自主性や自己肯定感の涵養に努めている。	
主な改善点	様々な活動やイベントの機会を通じて社会適応支援を行っているが、適応指導として、より意図的かつ計画的な取り組みが今後求められる。また、地域住民や地域団体との交流についても積極的な展開が求められる。	

評価項目	(4) 学校との連携	委員会評価
設問①	児童・生徒の状況（通室日数、支援内容、様子等）について、どのような形で学校と連携（方法、頻度等）しているか。	B
設問②	進路指導の状況について、在籍校とどのように共有しているか。	B
主な評価点	毎月、児童・生徒の通室状況を在籍校に報告するとともに、必要に応じて電話等により情報共有を図るほか、スタッフによる在籍校訪問、及び在籍校の担任との連絡会を年1回開催している。	
主な改善点	進路指導において、一定程度の連携は見られるものの、学校側からの連携が乏しく、また、学校によって連携や情報共有の程度に差異があるため、積極的な連携体制が求められる。また、ほっとスクールとしても、日ごろからの連携体制の構築に向けた働きかけが必要である。	

評価項目	(5) 保護者への支援	委員会評価
設問①	保護者との情報共有はどのように行っているか。	B
設問②	保護者からの相談に対して、どのように対応しているか。	B
設問③	必要に応じて関係機関と連携した保護者への支援を行っているか。	B
主な評価点	特記なし	
主な改善点	保護者からの相談に対する支援体制の充実が求められる。	

評価項目	(6) 他のほっとスクールとの連携	委員会評価
設問①	他のほっとスクールとどのように連携を図っているか。	B
設問②	民間委託のほっとスクール「希望丘」の設置により、運営にどのような影響や効果があったか。(人的ネットワークや民間ノウハウの活用など)	B
設問③	区直営のほっとスクールとして、支援にどのような特色(民営との違い)を生かしているか。	B
主な評価点	新型コロナウイルス感染症の拡大以後は実施できていないが、3施設での合同会議や合同イベントを開催し、情報共有や交流を図っている。ほっとスクール尾山台とは同じ直営施設として、密に情報交換を行っており、また、スタッフに学校の元管理職がいる強みを生かし、在籍校への復帰や進路指導等の際に学校との連携が図られている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があるものの、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウを十分には活用できていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

評価項目	(7) 職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	委員会評価
設問①	ほっとスクールのスタッフとして、求められる資質や専門性についてどのように捉えているか。	B
設問②	スタッフ間で指導・助言できる仕組みはありますか。また、どのような工夫を行っているか。	B
設問③	資質、専門性の向上に向け、どのような研修や取り組みを行っていますか。計画的に研修等を実施しているか。	B
設問④	他のほっとスクール職員との連携や交流による、スタッフの専門性や資質の向上に向けた取り組みを行っているか。また、どのような効果があったか。	B
主な評価点	児童・生徒一人一人に寄り添うことのできる共感的な感性がスタッフ間で共有されている。また、不登校に対する理解、体験活動や学習支援、子どもの特性理解や保護者との関係づくりなど、多角的な面から専門性の向上に努めている。また、月2回のスタッフ会議においてスーパーバイズを実施している。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあったが、研修機会が少ないため、さらなる研修機会の確保に努める必要がある。また、ほっとスクール尾山台とは合同研修を実施しているが、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウの共有ができていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

総評		委員会評価
総評	<p>元幼稚園という環境を生かし、自然環境と建物構造を利活用しながら、児童・生徒が通いやすい環境づくりに努めている。また、スタッフの雰囲気も明るく、児童・生徒に寄り添った支援が進められている。</p> <p>特に、学習支援においては、他の施設に比べ、児童・生徒一人一人に応じた個別支援を的確に行っており、学校との連携も図られている。また、社会適応支援の面についても、学習活動や体験活動において、児童・生徒の自主性、社会性、自己肯定感との関連が明確に意識された取り組みがなされ、児童・生徒が自らの意思を表明した際には評価を行うなど、児童・生徒への支援に対し高い意識をもって取り組んでいる。</p> <p>一方で、支援の場面では、スタッフ個々の経験値や個性・感性に委ねられている点があるため、今後、さらなる支援の充実に向け、支援に対する評価と見直しの実施、スタッフ全体の資質や専門性の向上に向けた研修の充実が求められる。そのためにも、民間委託施設との連携をより密に行い、民間ノウハウや人的ネットワークの共有化が求められる。</p> <p>また、今後、教育総合センターへの移転後、環境変化に対する児童・生徒へのきめ細やかな支援が求められる。</p>	A

ほっとスクール「尾山台」訪問調査 運営評価委員会評価結果

別添 1 - 2

評価基準 A…良好な取り組みを実施している B…おおむね適切に実施している C…一部改善を要する点がある

評価項目	(1) 居場所機能	委員会評価
設問①	児童・生徒が安心して通えるために、どのような工夫を行っているのか。	B
設問②	児童・生徒の状態をどのように把握（アセスメント）しているか。また、支援計画を立て、スタッフ間で共有を図っているか	B
設問③	休みがちな児童・生徒への支援や働きかけはどのように行っているか。	B
設問④	児童・生徒からの相談に対して、どのような対応を行っているか。必要に応じて関係機関との連携を行っているか。	B
主な評価点	行事やゲーム等の開催など、人間関係が築きやすい環境づくり、スタッフが意識を持って取り組んでいる。また、緊張度が高い児童・生徒に対しては、早期になじめるようスタッフが寄り添って支援している。 児童・生徒の状況や課題をワークシートに記載するとともに、朝と夕刻にスタッフ会議を開催し、スタッフ間での引継ぎも行っている。休みがちな児童・生徒には、保護者へ電話連絡を行うほか、「ほっとスクールだより」を送付し、通室の働きかけを行っている。	
主な改善点	児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、適切な評価や見直しを行っていく必要がある。	

評価項目	(2) 学習支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒一人一人の状況に応じた学習支援を行っているか。また、具体的にどのような学習支援を行っているか。	B
設問②	学習支援にあたり、目標や計画を定めて行っているか。また、目標達成や学習習熟度の評価をどのように行っているか。	C
設問③	学習意欲の醸成に向け工夫している点はあるか。	B
設問④	進路相談等、進学に向けどのような取り組みを行っているか。	A
主な評価点	児童・生徒一人一人の学習意欲に応じた指導を実施している。特に、学習意欲の低い児童・生徒に対しては、基礎学力の定着に力を入れており、自信の回復や達成感を得ることから、学習意欲の向上につなげている。 進路については、進路相談会で情報提供を行うほか、学習、作文、面接指導等の支援を実施している。また、学期ごとに二者面談を実施するなど、個別の相談体制も整っている。 中学校2年生に対しても進路に関する情報提供を行うなどの工夫も行っている。	
主な改善点	学習支援計画が作成されていないため、目標達成状況や学習習熟度の評価が十分にはなされていない。児童・生徒の状況に応じた学習支援計画の作成が求められる。 また、学習意欲の向上や動機付けに向けた更なる創意工夫が求められる。	

評価項目	(3) 社会適応支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒の自主性や自立性の育成、自己肯定感の涵養に向け、どのような取り組みを行っているか。	B
設問②	コミュニケーション能力の育成に向け、どのような取り組みを行っているか。また、児童・生徒間の交流にあたり、どのようなことに配慮しているか。	B
設問③	どのような体験活動を行っているか。また、体験活動の充実に向け、どのような工夫を行っているか。参加しない児童・生徒へはどのような働きかけを行っているか。	B
主な評価点	児童・生徒同士のかかわりを重視した活動やイベントを実施し、児童・生徒自ら主体的に取り組むための工夫を行っている。 集団行動が苦手な児童・生徒に対しては、遊びを重視した活動を行い、子どもたちが相互に関わりやすい雰囲気づくりを行うとともに、スタッフが個別に配慮しながら対応している。	
主な改善点	様々な活動やイベントの機会を通じて社会適応支援を行っているが、適応指導として、より意図的かつ計画的な取り組みが今後求められる。 また、地域住民や地域団体との交流についても積極的な展開が求められる。	

評価項目	(4) 学校との連携	委員会評価
設問①	児童・生徒の状況（通室日数、支援内容、様子等）について、どのような形で学校と連携（方法、頻度等）しているか。	B
設問②	進路指導の状況について、在籍校とどのように共有しているか。	B
主な評価点	毎月、児童・生徒の通室状況を在籍校に報告するとともに、必要に応じて電話等により情報共有を図るほか、スタッフによる在籍校訪問、及び在籍校の担任との連絡会を年1回開催している。	
主な改善点	進路指導において、一定程度の連携は見られるものの、学校側からの連携が乏しく、また、学校によって連携や情報共有の程度に差異があるため、積極的な連携体制が求められる。また、ほっとスクールとしても、日ごろからの連携体制の構築に向けた働きかけが必要である。	

評価項目	(5) 保護者への支援	委員会評価
設問①	保護者との情報共有はどのように行っているか。	B
設問②	保護者からの相談に対して、どのように対応しているか。	B
設問③	必要に応じて関係機関と連携した保護者への支援を行っているか。	B
主な評価点	特記なし	
主な改善点	保護者からの相談に対する支援体制の充実が求められる。	

評価項目	(6) 他のほっとスクールとの連携	委員会評価
設問①	他のほっとスクールとどのように連携を図っているか。	B
設問②	民間委託のほっとスクール「希望丘」の設置により、運営にどのような影響や効果があったか。(人的ネットワークや民間ノウハウの活用など)	B
設問③	区直営のほっとスクールとして、支援にどのような特色(民営との違い)を生かしているか。	B
主な評価点	新型コロナウイルス感染症の拡大以後は実施できていないが、3施設での合同会議や合同イベントを開催し、情報共有や交流を図っている。ほっとスクール城山とは同じ直営施設として、密に情報交換を行っており、また、スタッフに学校の元管理職がいる強みを生かし、在籍校への復帰や進路指導等の際に学校との連携が図られている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があるものの、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウを十分には活用できていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

評価項目	(7) 職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	委員会評価
設問①	ほっとスクールのスタッフとして、求められる資質や専門性についてどのように捉えているか。	B
設問②	スタッフ間で指導・助言できる仕組みはありますか。また、どのような工夫を行っているか。	B
設問③	資質、専門性の向上に向け、どのような研修や取り組みを行っていますか。計画的に研修等を実施しているか。	B
設問④	他のほっとスクール職員との連携や交流による、スタッフの専門性や資質の向上に向けた取り組みを行っているか。また、どのような効果があったか。	B
主な評価点	教育相談、学習指導、心理学的支援、特別支援教育など、各スタッフがその強みを発揮し、指導を総合的に行っている。また、月2回のスタッフ会議におけるスーパーバイズの実施や内部研修を実施し、専門性の向上に努めている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあったが、研修機会が少ないため、さらなる研修機会の確保に努める必要がある。また、ほっとスクール尾山台とは合同研修を実施しているが、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウの共有ができていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

総評		委員会評価
総評	<p>他の施設に比べ、施設面の制約がある中で、スタッフの努力と工夫により、人間関係が築きやすい環境づくりを行い、児童・生徒に対してより寄り添った支援を行っている。また、併設の体育館を活用したスポーツタイムを施設の特徴としており、児童・生徒の継続した通室につなげている。</p> <p>学習支援においては、スタッフが寄り添い学習意欲の醸成に努めているが、児童・生徒一人一人の状況に応じた目標設定や評価に至るプロセスが確立されていないため、学習支援計画の作成が求められる。</p> <p>また、ほっとスクール城山同様、支援の場面では、スタッフ個々の判断に委ねられている点が多いため、児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもった支援とその評価、見直しを行うとともに、スタッフ全体の資質や専門性の向上に向けた研修等の充実が求められる。</p> <p>民間委託施設とは異なるとの意識があり、連携に対する働きかけが少ないため、今後、民間委託施設との連携の充実を図り、民間ノウハウや人的ネットワークを活用することで、施設面の制約を補ったさらなる取り組みの展開が求められる。</p>	B

評価基準 A…良好な取り組みを実施している B…おおむね適切に実施している C…一部改善を要する点がある

評価項目	(1) 居場所機能	委員会評価
設問①	児童・生徒が安心して通えるために、どのような工夫を行っているのか。	B
設問②	児童・生徒の状態をどのように把握（アセスメント）しているか。また、支援計画を立て、スタッフ間で共有を図っているか	B
設問③	休みがちな児童・生徒への支援や働きかけはどのように行っているか。	B
設問④	児童・生徒からの相談に対して、どのような対応を行っているか。必要に応じて関係機関との連携を行っているか。	B
主な評価点	施設面で環境が恵まれており、自由な雰囲気もあることから、児童・生徒にとって自己開示しやすい環境となっている。説明会時に、スタッフ2名で児童・生徒と保護者それぞれにヒアリングを丁寧に実施し、その状況を把握している。利用にあたりプレ体験を3回実施しており、その間スタッフが丁寧に対応することでスタッフとの信頼関係を構築し、安心できる環境を築いている。児童・生徒にとって脅威となる関りを行わないことを第一にしている。	
主な改善点	児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、適切な評価や見直しを行っていく必要がある。また、児童・生徒の自主性を重んじる一方で、休みがちな児童・生徒への働きかけや支援の強化が求められる。	

評価項目	(2) 学習支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒一人一人の状況に応じた学習支援を行っているか。また、具体的にどのような学習支援を行っているか。	B
設問②	学習支援にあたり、目標や計画を定めて行っているか。また、目標達成や学習習熟度の評価をどのように行っているか。	B
設問③	学習意欲の醸成に向け工夫している点はあるか。	B
設問④	進路相談等、進学に向けどのような取り組みを行っているか。	B
主な評価点	児童・生徒の興味や意思を把握したうえで、学期ごとに個別学習計画を作成している。学習が苦手な児童・生徒に対しては、興味のあることから、学びの意欲を醸成する取り組みを行っている。また、学習アプリ「キュービナ」を活用した学習支援や、人的ネットワークを活用し、キャリア形成につながる講座も実施している。中学校の進路指導時期に応じた指導を実施しており、「15ミーティング」や「進路マップの制作」など、独自の取り組みを展開している。	
主な改善点	学習支援にあたっては、目標達成に向けた動機付け等の働きかけ、習熟度の評価については、より積極的な取り組みが求められる。独自の取り組みも踏まえながら、進路指導を実施しているが、その実現に向けた学習支援はさらなる取り組みが求められる。区の仕様において、学習支援にかかるスタッフの割合を明確に位置付けるなどの対応も考えられる。	

評価項目	(3) 社会適応支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒の自主性や自立性の育成、自己肯定感の涵養に向け、どのような取り組みを行っているか。	A
設問②	コミュニケーション能力の育成に向け、どのような取り組みを行っているか。また、児童・生徒間の交流にあたり、どのようなことに配慮しているか。	B
設問③	どのような体験活動を行っているか。また、体験活動の充実に向け、どのような工夫を行っているか。参加しない児童・生徒へはどのような働きかけを行っているか。	B
主な評価点	イベント実施の際には、児童・生徒による実行委員会を立ち上げ、企画から準備、運営に至るまで、子ども同士の話し合いにより実施しており、児童・生徒の自主性や主体性を重んじた取り組みを行っている。また、スタッフはファシリテーターとしての役割を担い、運営を支援している。	
主な改善点	児童・生徒の自主性や主体性を重んじる取り組みを行っているが、適応指導としての目的が明確、意図的かつ計画的な体験活動の実施に向けては、さらなる取り組みが求められる。また、地域住民や地域団体との交流についても積極的な展開が求められる。	

評価項目	(4) 学校との連携	委員会評価
設問①	児童・生徒の状況（通室日数、支援内容、様子等）について、どのような形で学校と連携（方法、頻度等）しているか。	B
設問②	進路指導の状況について、在籍校とどのように共有しているか。	B
主な評価点	毎月、児童・生徒の通室状況を在籍校に報告するとともに、必要に応じて電話等により情報共有を図るほか、在籍校の担任との連絡会を年1回開催している。	
主な改善点	進路指導において、一定程度の連携は見られるものの、学校側からの連携が乏しく、また、学校によって連携や情報共有の程度に差異があるため、積極的な連携体制が求められる。また、ほっとスクールとしても、日ごろからの連携体制の構築に向けた働きかけが必要である。	

評価項目	(5) 保護者への支援	委員会評価
設問①	保護者との情報共有はどのように行っているか。	B
設問②	保護者からの相談に対して、どのように対応しているか。	B
設問③	必要に応じて関係機関と連携した保護者への支援を行っているか。	B
主な評価点	特記なし	
主な改善点	保護者からの相談に対する支援体制の充実が求められる。	

評価項目	(6) 他のほっとスクールとの連携	委員会評価
設問①	他のほっとスクールとどのように連携を図っているか。	B
設問②	区営のほっとスクールとの連携等により、運営にどのような影響や効果があったか。(人的ネットワークや民間ノウハウの活用など)	B
設問③	民営のほっとスクールとして、支援にどのような特色(区営との違い)を生かしているか。	A
主な評価点	新型コロナウイルス感染症の拡大以後は実施できていないが、3施設での合同会議や合同イベントを開催し、情報共有や交流を図っている。また、区営2施設より学校との連携にかかる手法を学び、運営の質の向上に努めている。これまで法人として培ってきた人的ネットワークやノウハウを活用し、区営2施設とは異なる、民間ならではの自由度の高い取り組みを展開しており、児童・生徒にとって通いやすい環境を築いている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があるものの、他のほっとスクールとの連携や交流の機会が少なく、区営2施設に対し、民間活力やノウハウを十分に提供・共有しきれていない。連携や共有に向け、積極的に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

評価項目	(7) 職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	委員会評価
設問①	ほっとスクールのスタッフとして、求められる資質や専門性についてどのように捉えているか。	B
設問②	スタッフ間で指導・助言できる仕組みはありますか。また、どのような工夫を行っているか。	A
設問③	資質、専門性の向上に向け、どのような研修や取り組みを行っていますか。計画的に研修等を実施しているか。	A
設問④	他のほっとスクール職員との連携や交流による、スタッフの専門性や資質の向上に向けた取り組みを行っているか。また、どのような効果があったか。	B
主な評価点	この間、民間として培ったノウハウが蓄積されており、不登校支援に対する理解力、指導力がスタッフ間に浸透している。また、法人からの組織的指導や支援の体制が整っており、民間ならではの柔軟性や機動力がある。毎日2回ミーティングを実施しており、施設長を中心とした指導・助言体制が確保されているほか、研修体制も整っている。	
主な改善点	他のほっとスクールとの連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウを区営施設と十分に共有できていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。また、運営スタッフの資質や専門性の向上に向けた取り組みについて、区としても法人と連携を図りながら、実施内容や状況を適宜確認する必要がある。	

総評		委員会評価
総評	<p>施設が新しく、若者支援センターや体育施設も併設されており、他の2施設に比べて恵まれた環境にあるため、全体として明るく楽しい雰囲気があり、児童・生徒が通いやすい環境にある。</p> <p>運営法人としての特色を前面に出した取り組みを行っており、児童・生徒と作る居場所を意識し、児童・生徒にとってプレッシャーとなるような関りを行わないことを第一としている。児童・生徒の自主性を重んじており、これまで法人として培ったノウハウやネットワークを発揮しながら、他の2施設にはない多様で自由度の高い活動を展開している。そのため、居場所支援としての機能を十分に発揮し、自宅に閉じこもりがちな児童・生徒を通室につなげる役割を担っている。</p> <p>学習支援の面においては、他の2施設に比べると学校との連携が薄いですが、「すべての活動が学び」という考えに基づき、柔軟かつ多様な活動を展開し、直営にはない特色ある支援を行うという意味では一定のニーズを満たしていると考えられる。</p> <p>民営としての組織体制や運営方針に基づき柔軟かつ機動的な活動を展開し、多様なニーズに応えた適応指導の提供という点では、民間委託の導入効果はみられるが、直営施設への波及効果は少ないため、今後、直営施設との連携や交流を強化し、相互にノウハウ等を共有することで、ほっとスクール全体の質の向上につなげていく必要がある。</p>	B